

## トイレの考古学

2010年3月27日

木津川市教育委員会 文化財保護室 中島 正

### はじめに

人類の歴史とは、いかにして食料を生産し分配するか、その方法論を巡る闘争の歴史である。余剰生産物は社会を生み都市を成立させ、トイレの発達を促す。排泄物とその処理システムであるトイレの歴史は、まさに「家族・私有財産・国家の起源」を解き明かす鍵となるのである。

厠（川屋）、手水場、雪隠、東司（西浄）、後架、高野山、憚、閑所、御不浄、便所、トイレ（Toilet）、W.C.（D.C.）、・・・・etc

### 「トイレ考古学」の成立

トイレ確認の三種の神器

ウリの種、蠅の蛹の脱殻、籬木（クソ篋）

1992年（トイレ考古学元年） 確実にトイレといえる最古例の確認

寄生虫卵の分析 画期的な認定方法の確立 1,000個／立方cm以上で糞便

トイレ遺構確認の爆発的増加

### 都市とトイレ

トイレの情報量は無限大

トイレの蘊蓄

## 講演録

人類の歴史とは、いかにして食料を獲得・生産し分配するか、その方法論を巡る闘争の歴史である。余剰生産物は社会を生み都市を成立させ、必然的な都市機能の一部として、トイレの発達を促す。排泄物とその処理システムであるトイレの歴史は、まさに社会経済学的な命題である「家族・私有財産・国家の起源」(エンゲルス)を解き明かす鍵となる。厠(川屋), 手水場, 雪隠, 東司(西浄), 後架, 高野山, 憚, 閑所, 御不浄, 便所, トイレ(Toilet), W.C.(D.C.), . . . etc にみる世界の「トイレ」の名称には、社会生活における排泄行為とその営みにより生みだされる排泄物に対する、まさに人類の「思いいれ」=蘊蓄(うんちく)が詰まっている。閑話休題。ならば、その実態とは。

1992年(トイレ考古学元年)、藤原京の発掘調査において、確実にトイレといえる遺構が確認された。その確定の根拠となったのは、なんと、寄生虫卵の検出であった。寄生虫卵1,000個/立方cm以上で糞便とする画期的な認定方法の確立によって、全国でトイレ遺構の確認例が爆発的に増加した。トイレと判りさえすれば、そこから得られる情報量は無限大である。直接的な食物の種類・病気・生活習慣だけでなく、住環境や都市景観まで。

人類の物質文化の歴史から精神文化の究明への昇華を目指す「考古学」において、トイレの窓からの視点は、新たな総合的な歴史学の地平をひらくものとなったのである。